



岩瀬ますみさんを迎えに来た移動ヘルパーの武田敏子さん。



カフェテラスぴっころ で地域の二員に

「いらっしやいませ」、「何になさいますか」。一言一言を確かめているねいな対応がさわやかな、カフェテラスぴっころはメディアパーク市川の1階にあります。ここでは、知的障害者もほかのスタッフといっしょにウェイトレス、ウェイターとして働いています。通所施設や入所施設で働くばかりでなく、お客様対応ができるのではな

いかと始めたのが、この喫茶店の運営です。

「市川手をつなぐ親の会」は、知的障害者が地域社会の一員としてかかわりをもつことが大切だと考えています。そのためには、子どもたちから家と通所施設、学校を歩き来するだけではなく、余暇や自由時間を楽しみ過ごし、多くの人と接することのできる居場所づくりが欠かせません。

しかし、実際には課題は常にたくさんあります。「息抜きの場所や生活ホ

遊園地、プール、 ゲームセンターに 連れて行って！

知的障害のある岩瀬ますみさんは、移動ヘルパーと出かける2週間に1度の散歩をとても楽しみにしています。今日も移動ヘルパーの武田敏子さんと一緒に、お気に入りの散歩コースの一つ、行徳野鳥観察舎の遊歩道へ出かけます。年齢的にも近く、背格好も同じくらいの武田さんと手をつないだり肩組みをしたり、岩瀬さんは安心して、とてもリラックスしながらの散歩です。

外出時の移動ヘルパーのサービスが、2003年4月から利用できるようになりました。それまでは、ホームヘルパーのサービスは主に老人介護を目的としていたため、利用できなかったのです。

ひとりの市民として “このまちで暮らしていきたい” 市川手をつなぐ 親の会

性別、年齢、障害の有無にかかわらず、住み慣れた土地でいつまでも暮らしていきたいと願うのは、誰しも同じです。「市川手をつなぐ親の会」は、知的障害者を持つ親同士が手をたずさえ、働く場としての作業所づくりや行政への働きかけを行うなど、知的障害者が一人の市民として充実した生活を営み、地域で暮らすためにさまざまな形で支援をしています。社会福祉法人を設立するなど、常に前向きに取り組む「市川手をつなぐ親の会」の活動を紹介します。



気がねなくのびのび歩ける遊歩道では、岩瀬ますみさんも楽しくてつい足早に。

ームづくりに何よりも欠かせないのが地域の協力です」と会長の田上昌宏さんは言います。若い世代のメンバーが中心になって、積極的に障害のある子どもたちの存在を周りの人に理解してもらう活動も進めています。地域のかたがたに理解してもらって、気軽に声を掛け合えるような関係ができればと考えています。

会長の田上昌宏さんも、知的障害を持つ子どもの親。



カフェテラスぴっころの仕事は接客だけでなくとどまらない。ゆっくりと、確実に業務をこなす。

「市川手をつなぐ親の会」では、実際にサービスを利用する側から出てきた課題を改善するため、制度やきまりを変えていく働きかけもしています。

例えば知的障害児者は、2対1の割合で男性が多く、自閉症ではさらに4対1と高くなります。しかし、市の福祉公社に登録するヘルパー400人のうち、男性は10人というのが現状。男性の移動ヘルパーを増やしていくことが今後の課題です。

「同性・同世代と友だち感覚で、行きたいところへ一緒に行きたいというのが、みんなの希望です。中・高・大学生にも、アルバイト感覚で働いてもらいたいと思っています」と田上昌宏さん。短時間の養成講座受講で、移動ヘルパーとしての資格登録ができるシステムづくりも進めています。

市川手をつなぐ 親の会

会の発足は、市立第二中学校に特殊学級が誕生した1949年にさかのぼります。翌年、真間小学校にも特殊学級が設置され、それらの保護者や先生約30人により1953年に「市川手をつなぐ親の会」が結成されました。

現在、会員数は760余人にのぼり、地域作業所をはじめいくつかの事業を運営しています。より幅広い強力な活動と、認可施設やグループホームなどの国の法定化事業に取り組むようと、1994年10月には社会福祉法人も設立しています。



お問い合わせ

「市川手をつなぐ親の会」
連絡先 田上昌宏 TEL 047-323-2304

